

小中一貫教育の状況について

西ノ島小中学校がスタートして約半年が経過しました。前年度でできる限りの準備はしてきたものの、実際にスタートしなければわからないことが多く、やりながら修正を加えていくというスタンスでのスタートでした。今のところ大きな混乱もなく、小学生中学生が仲よく活動したり、遊んだりと微笑ましい光景が見られました。私の印象では、大半の子どもたちが、「校長先生が一人になったんだ。」「職員室が一つになって、先生方がたくさんおられるな」と感じてはいるものの、「日常生活でそれほど大きな変化を感じている様子はあまり伺われません。しかし、小学校6年生は、社会科と理科を中学校の教員が、中学校1年生は、数学科で小学校の旧担任が応援に入り、総合的な学習の時間では、小学校6年生と中学校1年生が、同じ探求課題を設定し、協力しながら課題解決をしています。小学校・中学校の繋ぎ目では、切れ目のない指導がされています。

一方、教職員にとっては、小中一貫教育は、一大事であり、組織の変化・日常活動の変化・校長一人体制と多くの変化を感じ、戸惑いもあったことと



▲小6・中1 山本幡男の調べ学習（ふるさと館）

思いますが、前年度までに準備してきた計画に基づき、日々頑張つて指導している姿をたくさん見ることができました。先生方が、小学校の子どもも中学校の子どもも自分の学校の子どものちという意識を持ち、多くの教職員の目で子どもたちを見守り、声掛けをする、その日々の関わりの中で、子どもたちも落ち着いて学校生活を送ることができていると感じています。

まだスタートしたばかりですが、子どもたちも教職員も地域の方々も「小中一貫教育になって良かった」と言える日が近いことを願っています。

（派遣指導主事 澤純子）

ふるさと教育の推進

前述した小中一貫教育のスタートに合わせて、小中9年間を見通したふるさと教育について、どの学年が何を学ぶのか・ふるさと教育を通してどんな力をつけるのかを整理しました。これらは、平成29年度より学校・家庭・地域が一体となって策定した西ノ島町教育魅力化構想「ふるさとへの誇りをもち、未来の西ノ島の担い手となる自立した15歳」の実現を目指し、学校と教育委員会（地域）が協働で作成しました。

小学校1・2年生では、「ふるさとを楽しむ・浸かる」ということをテーマに西ノ島町の様々なひと・もの・ことと積極的に関わります。



▲小3 西ノ島の伝統
シャララ船の模型に触れます（浦郷会館）

小学校3・4・5年生では「ふるさとを体感する・伝える」をテーマに、社会科・総合的な学習の時間を中心に西ノ島町の歴史・文化、自然、産業（漁業・畜産・観光）を他者に伝えるという視点をもちながら、体験的に学びます。



▲小4 海の自然
テングサからとろろん作り

小学校6年生・中学校1年生は、「ふるさとに向き合う」をテーマに、総合的な学習の時間を中心に西ノ島町の環境・歴史・町づくりの取組や町の課題に関して探求的に学びます。前述した小6・中1の探求学習もこの中の学習活動です。





▲小5 西ノ島の畜産
牛・牧の観察をして質問をしました(赤尾展望所)

中学校2・3年生では、「ふるさとのために行動する」をテーマに、キャリア、町づくりに関する学習を行います。9年間で学んだことを生かし、実際に町に出て実践を通し探求的に学びます。さらに、ふるさと演劇を行い、歴史・文化の学習のゴールとします。

今年度は実践の年です。西ノ島町の様々なことが学べているのか、つけたい力は子どもたちに身につけているのかを実践に照らし合わせ、学校・教育委員会とで協議し検証していきます。
(派遣社会教育主事 廣江健介)

公民館の取組

しまっこ広場

夏休みのしまっこ広場は自由研究をテーマに、「夏休みの工作をしよう!」と「いかあ屋探検!自分の『ワクワク』をみつつけよう」を開催しました。

夏休みの工作をしよう!

「夏休みの工作をしよう!」では講師に竹山和男さんをお招きして、竹を使った水鉄砲と竹とんぼ作りを行いました。



▲小刀で竹とんぼ作りをレクチャー

当日は慣れない作業に四苦八苦しなながらも、一生懸命竹を加工する姿を見ることができました。

完成した水鉄砲は綺麗に水を発射することができ、きちんと飛ぶか心配された竹とんぼは竹山さんやボランティアさんの手伝いもあり、空高く飛ばすことができました。

竹を削ったり穴を空けたりすることは不慣れだった子どもたちですが、完成品はすごく良いものが出来上がりました。



▲竹の水てっぽうで遊びます。

いかあ屋探検! 自分の『ワクワク』をみつつけよう

図書館の本を通して自分の興味のあることに出会うことを目的に講師に小



▲本を見ながら興味のあることを考えます。

山亜理沙さんを招き、「いかあ屋探検!自分の『ワクワク』をみつつけよう」開催しました。

日頃から自分が気になっていることを図書館で調べることが少ない子どもたち、どうやって疑問を解決するのかを本を使って学びました。

子どもたちには少し難しいテーマかと思われましたが、熱心に本を見ながら考える姿を見て、子どもたちの未来への可能性を感じることができました。

これを機会に将来研究者になる子どもが出てくるかもしれないですね。